

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100261		
法人名	有限会社サカイコーポレーション		
事業所名	グループホームくすみ		
所在地	宮崎県宮崎市佐土原町下那珂2962番6		
自己評価作成日	令和3年1月23日	評価結果市町村受理日	令和3年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和3年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の残存機能をいかした介護を心がけている。施設内で出来るイベントなどを力を入れています。また、日頃のレクリエーションでも毎日同じことだけではなく、たくさんの方を利用者と楽しみながら生活しています。毎日出来立ての温かい食事を出していることで利用者も大いに満足して残さず、食べられている。3度の食事に家庭的な味わいを感じてもらっています。季節感のある食事の提供をしている。理念をもとに、介護を実践している。1人ひとりが自分らしく穏やかに過ごせるように心掛けています。四季を感じられるように室内を装飾したり、イベントをしたりして心配りをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の作成を全職員で行っている。この理念を基に利用者が地域にあって自分らしく穏やかに暮らせる支援を心掛けている。いつも寄り添うこと、楽しく暮らせること、季節を感じられる食事を提供することの為に利用者とその家族とのコミュニケーションを大切に全職員はチームで支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議で唱和し、日常生活の介護で実践するように努めている。介護に困った時など、いつでも理念を振り返ることが出来るようにホーム内5か所に掲示している。	2006年開設時に地域密着型サービスの意義を踏まえ、全職員で理念を検討し作成している。会議・通常勤務では唱和や掲示を見ることで自覚を促し、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナウィルスの影響でなかなか交流が出来ていない。通年は、来て頂いている。ボランティアや介護実習生の受け入れ等をストップしている。	食に関することや生活用品を地域の店舗で購入するなど地域住民との交流につながるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の電話での相談・外観や雰囲気伝える施設見学等を行っている。今年度、認知症サポーター養成講座の開催を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、コロナウィルス感染症対策の為運営推進会議が書面での開催の為、意見交換など出来ていない。	感染対策のため、ホームの取組や利用者の現状報告を主体に書面での開催を行い、サービスの向上に生かすよう取り組んでいる。例年からすると意見交換等ができていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度や変更等で不明な点があった時には、担当部署に出向き、相談等を行っている。	行政手続に関わることは直接に出向き担当者に相談指導を受けている。また、ホームの現状を積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。身体拘束について、内部研修で全職員に展開し身体拘束をしない利用者の尊厳を考えたケアを実施している。身体拘束適正化委員会を設置している。	外部での身体的拘束研修会の資料を基に内部研修会を行い、高齢者虐待や身体拘束につながる具体的な例を提示し、周知を図るとともに接遇マナーにも留意しながら利用者の尊厳を守る支援ができるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルをいつでも職員が閲覧できるようにしている。日頃から、自分自身の介護を振り返るよう努めることで職員一人ひとりが適切なケアができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護福祉士などの有資格者や権利擁護推進委員を配置しており、いつでも権利擁護について相談に乗れるようにしている。内部研修で学ぶだけでなくマニュアルを作成、職員に配り理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学から契約時まで何度も話を重ね合い、解りやすく説明している。疑問点などがあつた際には、各担当者の連絡先を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、日頃からご家族と話をする機会を多く作り意見が言いやすい環境作りに取り組んでいる。玄関にご意見箱を設置し、苦情相談窓口のご案内をしている。	日頃から家族や利用者とは話す機会をつくり、感染対策のためベランダで面会を行うなど、意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議には、運営者も参加している。職員同士で意見を出し合い話あっている。	日々の業務での問題点をその時々提案し利用者の生活改善に繋げ、設備の改善工夫や利用者の機能向上のための意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格・積極性などを考慮し、本人の強みを活かすことができる業務を割り振り、介護職員処遇改善加算を支給している。人員基準以上の人員配置を行い、ゆとりを持って業務を行えるよう配置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人のやる気や能力に応じた研修が受けられるよう本人の希望を聞いたり、勤務時間の配慮を行っている。勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、コロナウィルスの影響で同業種の方などとのネットワーク作りの交流が出来ていない。通年では、積極的に交流が持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人と毎日の生活の中で、不安なことや思いやニーズを出来るだけ引き出せるように努めている。出来る限り、安心して施設で生活してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学からご入所まで何度もお会いし話し合いを重ねている。ご家族のその時のお困り事を聞きながら、それに付随した気持ちを出来るだけ拾い上げられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、施設の案内と十分な説明をし、聞き取りを行っている。その時に必要な支援を見極めて対応・支援するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃より、利用者にも出来る範囲でお手伝いをして頂き、その後必ず感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしている。持ちつ持たれつの関係性が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、コロナウィルス感染症対策の為面会制限中となっている。体調の変化などあった際にはすぐに、ご家族にご報告している。必要物品の連絡などこまめに行っている。その際に、日頃の生活状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナウィルス感染症対策の為ご家族のみのベランダ面会をさせて頂いている。年賀状の支援、電話の取次ぎなど支援している。	家族とベランダ面会を行い、遠方の方とはお便りや電話で関係が途切れないよう関係継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションを通してコミュニケーションを図るきっかけとなっている。また、利用者同士のトラブルがある場合には、支援している。席替えなどをするなど、良好な関係性が保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退所された利用者の方が、住み替えされた所に出向き、お会いさせて頂いている。医療・福祉従事者の方と情報の共有をさせて頂くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者が、自分の思いなどを話しやすい環境づくりをしている。職員全員で話し合い本人の希望に応えられるようにしている。	本人の言動や表情、その時の雰囲気注意到、出来る限り、日常であったことなどを記録にとり、本人の思いや気持ちをくみ取るよう努めている。日々職員間で情報共有し、ケア担当者会議や全職員で話し合い、思いや意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族より会話や生活の中でお聞きしている。入所前の医療・福祉関係者からの情報提供や話をすることで、できる限り早期で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	独自の記録用紙となっている為、24時間の本人の気持ちや生活状況、水分・排泄・睡眠量が把握しやすいようにしている。本人の生活パターンが解りやすいようになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとり担当職員を持ち、担当職員が評価し、ケア担当者会議で全職員で現状の話し合いを行い、その後計画作成担当者が評価している。	担当者会議で家族の意向と利用者の日々の記録(介護記録・バイタル記録・ケア会議記録)を全職員で検討しケアマネジャーが介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看護・介護経過記録をもとに、日頃の様子を全職員で情報の共有を行っている。ケアの統一をすることで、事故防止にも繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通年では、介護ボランティアなど積極的に受け入れを行いホームに外部との関わりを取り入れて地域の人と関わったりコミュニケーションを図ったり交流を深めているが現在は、中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前からのかかりつけ医を受診される方、ご家族の希望でホームに往診に来られている医師にかかられる方さまざまである。医療連携体制を構築している訪問看護師の意見を聞きながら進めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を受診される方、ご家族の希望でホームに往診に来られている医師にかかられる方さまざまである。医療連携体制を構築している訪問看護師の意見を聞きながら進めている。	本人や家族の希望する医療機関の受診が継続できるように柔軟に対応している。かかりつけ医や専門医、訪問看護ステーションとの連携に取り組み、適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護来訪時に日々の生活状況の報告をし情報の共有をしている。また、体調の変化時にもすぐに連絡し指示を頂いている。必要時には、緊急訪問をしてもらい安心した支援を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、必ず現在の状況が解るよう支援している。医療機関の方と常に情報の共有を行っている。退院時にも、病院関係者の方からの情報を頂いた上で、生活する上での注意点などを聞きながら介入を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階から、重度化についての話を十分に行っている。その時の状態に合わせたネクストステージを踏まえた上で適切な治療もしくは療養が受けられる環境をご家族と話し合いながら進めている。	看取りは行わない方針であり、入所契約時に重度化した場合の説明を行っている。家族とはその都度話し合いを行い適切な治療、療養の方向性の説明、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会を行い理解を深めている。また、マニュアルも作成しいつでも見られるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通年であれば、地域の消防団の方々に夜間を想定した、避難訓練に参加して頂いているが、今年度はコロナウィルス感染症予防の為実施出来ていない。	年2回の避難訓練、地震等に対応する訓練を行っているが、今年度は感染対策のため実施していない。地域住民、消防団との協力体制づくりに努め、食料を備蓄するなど、災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・トイレ・更衣時は特に気を配って援助をしている。また、出来る限りプライバシーを損なわない対応を心がけている。1人ひとりを尊重し、声のトーンや場所に合わせた声掛けや言葉を選ぶようにしている。	入浴、トイレ、更衣時の声掛けには配慮している。一人ひとりに合わせた声のトーンや場所に合わせて言葉を選んでいる。理念にも人権の尊重が掲げられ、一人ひとりを尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時の会話や表情などを観察し、本人の思いに寄り添い出来る限り、自己決定できるように支援している。繰り返し行っていく中で自信をつけていただきながら支援できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が付き添い、同じことをくり返してチャレンジすることで、本人の趣味の幅が広がるよう支援している。生活の中で、本人が今できることを優先的に行って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類選択を一緒に行ったり、好みの服の把握に努めている。通年であれば、概ね1ヶ月～1ヶ月半に一度訪問理美容店に来訪して頂いていたが現在中止している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	他利用者とテーブルを囲みながら、食事をとることで楽しく食べられている。食事は、利用者の希望を聞きながら作っている。お手伝いをしてもらいながら、一緒に料理作りをしてもらうこともある。	利用者もお盆やテーブル拭きなどの手伝いを行っている。利用者の状態に応じた食事形態になっており、利用者の希望を聞き取り献立を立て食事を楽しむ支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を把握し、どの時間帯に多く水分摂取をして頂けるかを把握しできる限り多くの水分摂取をして頂けるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員見守りのもと口腔ケアを行っていただいている。自分で磨ける方も、磨き残しなどないか口腔内を確認したり、必要に応じて介助しながら清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、声掛けトイレ誘導を行う等の支援を行っている。おむつをしない、おむつを外すよう努めている。できる限り本人が自信をなくさないような声掛けを意識している。	日中、夜間ともにトイレ誘導を行っている。排せつチェック表を利用し排せつ時間を把握した声掛け誘導を行い、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の排便の状況を記録にとり、排便パターンを把握している。主治医と話し合い個々にあった排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調と気分に合わせて、時間の変更や翌日に変更するなどして柔軟に入浴支援を行っている。	週2回は入浴を行い清潔保持に努めている。入浴を拒む場合は翌日に対応し、個々に沿った入浴を楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日、交代でシーツ交換と布団を干している。日中は、適度な運動や日光浴を取り入れメリハリのある生活リズムをつくることを心がけ夜間帯に安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員2名でダブルチェックを行い、日付け、名前を確認し服薬介助を行っている。処方の変更時など、特に注意をし全職員がわかりやすいように申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割をお願いしている。必ず手伝って頂いた後には、感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナウィルス感染症予防の為、病院通院時のみの外出支援を行っている。外出時には、マスクの着用を徹底してもらい、予備でもう1枚マスクを持って行って頂いている。	家族の協力の下、ドライブやお墓参り、正月の帰省など行っているが、感染対策のため、ベランダでの日光浴、外気浴を行うなど支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、お小遣いを預っているのご本人がお金の心配をされている時には話をし納得して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話がしたいとの話があった際には、ご家族のご都合と状況に合わせて電話の取次ぎを支援している。利用者の方に時効の挨拶の手紙などご家族に送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の落ち着く場所でテレビを見たり新聞を読むなど、気の合う者同士で談笑しつづいで過ごされている。その時の状況に応じてソファの座る場所に誘導し利用者の方々が落ち着いて生活できるように気配りを行っている。	共用空間の壁紙やカーテンは明るい空間となるよう淡い色にするなど工夫している。温度、湿度にも配慮し、居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で読書をしたり数人でテレビを観たり、その時の気分に合わせて思い思いの時間が過ごせるようホーム内の要所に数人がけのソファや一人用の椅子を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの思い入れのある家具などを置くことでその人らしく安心して落ち着いて過ごせる居室作りをしている。また、編み物を持って来て頂き今までと同じく趣味等を楽しむ暮らしが出来るように支援している。	居室は家族の写真や色紙などを飾ったり、使い慣れた寝具類を使用し、毎日布団干しやシーツ交換を行うなど、居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの力を把握し、補助器具などを使用して安心・安全な生活ができるように支援している。トイレなど解りやすいようにしている。夜間など、扉を少し開けてすぐに解るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容